

# 荒川区防犯カメラの設置及び運用に関する条例を可決

現在、区施設に483台、町会や商店会に101台（補助金活用）の防犯カメラが設置されている。ようやく、条例で、画像の保存や第三者への提供など運用方法を、条例で取り決めた。個人情報保護運営審議会での議論を経るための条例も改正した。

監視社会の様だという危惧も語られている。個人のプライバシーに関わることなので、慎重でいいいな運用をお願いしたい。



せの喜代の一般質問から

## 子宮頸がんワクチン 積極的推奨中止の広報を

「骨をハンマーで殴られているような強い痛み」「脳の中をかき回されているような頭痛」「けいれんが全身に走る」「寝たきり状態に苦しんでいる」など強い副反応が明らかになっている。被害者連絡会からワクチン接種を中止するよう要請を受けたのに対し、6月14日、厚生労働省は、「定期接種を積極的に勧奨すべきではない」として「現在、ワクチン接種を積極的にはおすすめていません。接種を受ける場合は有効性とリスクを理解した上で受けてください」というチラシを作成した。この厚労省の動きを適切に広報し、副反応の調査研究に協力すべきである。

ワクチン接種の案内を送った方たちに、厚労省のチラシを送るべきと区に提案したところ、個別に送付されることになった。

ワクチンの副反応や接種に関わる相談には丁寧に対応してほしい。



## 子宮頸がんは検診で確実に予防できる

子宮頸がんは、若い女性に増えている。

20歳代の子宮頸がんの発生率が、この20年間で2～4倍に急増したことからワクチン接種が始まった。

子宮頸がんは、「予防が可能」で「早期なら確実に治せる」という、ほかのがんにはない特徴を持っている。原因はヒトパピローマウイルス（HPV）というありふれたウイルスだが、定期的な検診を受け、早期に発見すれば、完治できる。そもそも、ワクチンは一部のHPVウイルスにしか効果がないので、確実に予防できず、検診は必要である。もっと検診の受診率をあげるからこそが必要ではないか。

すべての子どもが  
自分らしく輝く社会へ

### 多様な学び保障法 の実現を



すでに、全国には、ホームエデュケーション（家庭を基盤とした教育）、フリースクール（学校外の居場所・学び場）、シュタイナー学校、サドベリースクール、オルタナティブスクールなどなど、多様な学び場の実践が行われている。今の学校教育と合わせ、子どもが自分にあった教育の場を選択できる時代が来ればよいと思う。

今、全国で不登校の子どもは、17万3750人、高校中退は5万3937人（文科省2013年度調査）。不登校の子ども急増した1980年から、公教育に馴染めない子どもたちへの教育支援が親・市民・教育関係者らの手で様々に行われてきた。価値観が多様化する現在、日本の将来のためにも、子ども達がそれぞれの個性を磨くさまざまな教育の公的支援が必要ではないだろうか。

### 無料弁護士相談を ご利用ください

毎月第3土曜日 11時から

せの事務所にて

（日暮里駅から徒歩5分）

予約制、日時の変更もできます。

ご予約は、せの喜代まで  
TEL/FAX 3891-0203